令和２年度第２回幕別町総合教育会議議事録

１　開催日時　　令和３年２月17日（水）午後１時30分～午後３時45分

２　開催場所　　幕別町役場２階会議室Ａ・Ｂ

３　出席委員（６名）

幕別町長		飯田　晴義
幕別町教育委員会教育長		菅野　勇次
	教育委員	小尾　一彦
	教育委員	國安　　環
	教育委員	東　みどり
	教育委員	岩谷　史人

４　日程

（1）　開会挨拶

（2）　協議事項

①　令和２年度まくべつ学園の活動について

②　スポーツ推進計画の策定について

５　事務局出席者

幕別町企画総務部長		山岸　伸雄
〃	政策推進課長	白坂　博司
〃	政策推進課副主幹	小寺　博志
幕別町教育委員会教育部長		山端　広和
〃	学校教育課長	宮田　　哲
〃	生涯学習課長	石田　晋一
〃	学校給食センター所長	鯨岡　　健
〃	図書館館長	武田　健吾
〃	学校教育課総務係長	山田　慎一
〃	学校教育課学校教育係長	酒井　貴範
幕別町立幕別小学校校長		山田　　洋
幕別町立幕別中学校校長		喜多　　敦

６　傍聴者

なし

７　議事録

（政策推進課長）

ただ今から令和２年度第２回幕別町総合教育会議を開催いたします。 開催に当たりまして、飯田町長よりご挨拶いたします。

（町長）

皆さん、こんにちは。

今年初めてなので、どうぞよろしくお願いいたします。岩谷委員につきましては、昨年10月からの任期となりますが、今回が初めての総合教育会議となると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この１年間、コロナに明け暮れて、まだ予断を許さない状況が続いています。十勝管内でもクラスターが発生しており、１箇所まだ終息していません。しかし、ここ７日間、新規感染者が出ておらず、落ち着きをとり戻しつつあるのかなと思っていますが、過去の教訓からいって油断をするとあっという間に感染が広まるので、あと１年間はしっかりと感染予防対策をしていかないといけないと思っています。ワクチンも火曜日に入り、今日から医療従事者への接種が始まっていますが、十勝管内は該当者がいないということで、３月中旬ぐらいから接種が始まっていくのかなと思っています。町内でいうと、４月に入ってから高齢者、福祉・介護関係者、医療関係者、基礎疾患のある方、一般の方の接種が順次進んでいくと思いますが、担当課ではいかにして円滑に接種を進めるということを検討しているところです。関係予算については、３月２日から始まります第１回定例会にて提案、議決をいただく段取りとなっています。また、一方では経済が非常に落ち込んでおりまして、度々経済対策を打ってきましたけども、今日臨時会がありまして、緊急の経済対策として、事業者への支援、宿泊施設の支援についての議決をいただいたところであります。国の臨時交付金を使い切って対策を打っていきます。

学校においては、クラスターも発生していませんし、感染者も出たという話も耳にしておりませんので、学校現場では大変なご苦労があったと思っていますが、今一度気を引き締めて感染予防対策をやっていただきたいと思います。

これまで悪いことばかりお話ししておりますけども、コロナですが、国の補助金や臨時交付金を活用して、学校現場にも良い影響は出ていると私は思っています。GIGA スクールが飛躍的に進められることができていますし、普通教室や職員室のエアコン整備も一気にできましたし、農村部の光回線網の整備も来年末には完成する予定です。コロナのお金を活かして、まちづくりの懸案を回避できたらなと思っています。これにより学校の環境は整いましたので、いかにソフト面を充実させていくかということになります。新年度予算を３月２日に提案しますけども、教育に関しては満額回答かなと。

本日は、まくべつ学園の活動、スポーツ推進計画の策定について、意見交換をさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（政策推進課長）
　協議に入る前に、皆様にお配りしている資料の確認をさせていただきます。
　事前に資料１－１から資料２－４までの 10 種類をお配りしております。資料については、すべてお揃いでしょうか。
　それでは、ここからの進行につきましては、町長にお願いいたします。

（町長）
　それでは、協議事項１「令和２年度まくべつ学園の活動」について、事務局から説明をお願いします。

（山田校長）
　皆さん、こんにちは。本日はまくべつ学園の活動について、ご報告させていただきます。お手元の資料とスクリーンを見ながら聞いていただければと思います。
　本日は、「まくべつ学園の取組」、「コミュニティ・スクールの取組」、「コロナ禍の対応と現在の取組」の３つの取組についてご説明いたします。「コミュニティ・スクールの取組」は来年度より開始となりますので今年度は準備の年となります。「コロナ禍の対応と現在の取組」は幕別小学校と幕別中学校の取組となります。
　まずは「ロードマップの確認」（２ページ）です。
　学力向上と不登校予防を大きな目的として、幕別町小中一貫教育推進構想が始まっています。９ヵ年計画で今年はその真ん中の５年目ということになります。今年は、第２期目の「一貫教育本格実施」の２年目となります。５つの「つながる」を取り組みながら、３つの内容（①～③）について推進していきます。
　それでは今年度のまくべつ学園の取組についてご説明させていただきます。（３ページ）
　まくべつ学園は、学習部、生活部、特別支援教育部、地域連携委員会の４つの部会・委員会に分かれて活動を進めております。学習部ですが、教育課程を小中つなげていくことが重要だということで、今年は重点的に指導内容とポイントの見直しを行っており、それに基づいて乗入授業を行っています。さらに中学校授業体験、まるわかりまくべつ学園一覧表の作成を行っています。主に生活部では、安全教育、児童会生徒会の交流、部活動体験、生徒指導交流会なども実施しています。特別支援教育委員会では、合理的配慮についての学習会、発達支援が必要な児童生徒の情報交流を行っています。地域連携委員会では、今年から全国的に始まった、子どもたちの自己理解を促して自立的に自己実現を目指すことを目的としたキャリアパスポートの内容を決めたりしています。
　続いて今年度の成果についてご説明させていただきます。（５ページ）
　今年度は、先ほど紹介した活動を進めるうえで、目標や意義の明確化を図り組織的に活動を推進するための組織マネジメントの導入、そして２年目を迎えた活動の質の向上を重点的に進めました。まずは、目標や意義の明確化ですが、ロードマップにより、これから目指していく方向を改めて確認しました。目標、内容の精査、実施、反省のマネジメントサイクルを導入しました。別紙１-２のとおり、発達段階で目指す子ども像をより具体化すること

ができました。質の向上では、別紙１-３のとおり、重点的に指導する内容を見直し、それに基づいた乗入授業を今年は 246 時間実施することができました。続いて、別紙１-４の保護者等に紹介説明するための一覧表を小中のつながりを意識して見直すことができました。児童会生徒会の交流も回数を増やし、少しずつ提案などもし合えるようになってきました。キャリアパスポートの新規作成、中学校体験は、昨年の回数は１回から６回、時間も５時間から 15 時間に増やしました。

今後の課題についてですが（６ページ）、まず、第一に、９年間を見通した教育課程に様々な活動をしっかりと位置付けていくことが必要です。その際、様々な事業の回数を増やして、よりたくさん交流事業を行うことが、子どもたちにとって良いことだと、私たちは思いがちですが、特に、情緒的な不安感をもっていたり、理解に時間を要したりする子どもなどにとっては、意外に負担になっていることもあるようです。その辺りを十分に注意しながら、教育課程への位置づけと時間の確保が課題です。また、来年は仕上げの年となるので、これまでの事業の振り返り、さらには、今年導入した組織マネジメントを確立することなどが課題です。先生方にとっては、働き方改革が叫ばれ、業務改善を進めている中で、いかに時間を生み出すかが重要な課題です。実際、一貫教育の打合せを勤務時間の中で済ませることができません。変形労働時間の活用など、制度をフル活用していくことが必要です。

次にコミュニティ・スクールの取組です。（７・８ページ）

まくべつ学園では、３つの準備を進めてきました。１つ目が、昨年度より町の要綱が制定され、立ち上げた学校運営協議会です。まくべつ学園では、６名の協議員さんが年間３回の会議を開催し、大きく４つの内容について協議を進めています。校長は、オブザーバーとして参加しています。２つ目は、先生方で地域連携委員会を設置し、地域活用データベースの整備を行っています。そして、３つ目として、地域の方々への周知を含め、登録制による「学校応援ボランティア」の募集を開始していますが、１名が応募してくれています。今回の募集は「学校応援ボランティア」の周知を一番の目的としています。次年度は、地域学校協働本部を立ち上げ、地域連携委員会や学校運営協議会とつながりながらコミュニティ・スクールを進めていくこととなります。

次に、コロナ禍の対応と現在の取組について、お話します。（９～15 ページ）

今年度、学校では、「学校安全対策」と「学びの保障」の両立を大きな柱として教育活動を進めてきました。安全対策は、コロナ対策に万全を尽くすことが基本です。レベルやステージに応じて、対応を変えながら進めてきました。学びの保障では、少人数指導、非認知能力の育成には欠かせない対話的学習、コロナ禍で遠隔授業など ICT 機器の活用を進めています。また、学校教育には重要な、運動会、学習発表会などは、形を変えて実施することができました。その他、各種制度を活用して、子どもの学びを保障してきました。

「学力向上」と「不登校予防」を大きな目的として進められている小中一貫教育ですが、

全国学力・学習状況調査の中で、小学校では無回答がなくなったり、非認知能力を図る質問の回答が全道を上回ったりしています。中学校でも、良い結果が出ていると聞いています。

また、不登校は、小学校では昨年度に引き続き０人、中学校も人数が減っていると聞いています。今のところ、一応の成果が見えてきています。

では、最後に新年度の内容についてお話しします。（17 ページ）
新年度は９ヵ年計画の６年目となります。小中一貫教育の仕上げの年、コミュニティ・スクールのスタートの年です。また、健康安全と学びの保障の取組は、コロナの影響により今年も継続します。まくべつ学園のコンセプトは、健康安全を第一に、未来志向の質の高い学びを創造することです。
最後に令和の日本型の学校教育について、文部科学省から答申が出されています。（18 ページ）その中でどんな子どもを育てていくのかということが示されていますが、自分の良さや可能性を認識して他人の存在を尊重しながら進んでいける子ども、いわゆる「自他の尊重」をできる子ども、しっかりと協働できる子ども、新たな価値を生み出すことができる創造力のある子どもを育てていかなければいけません。さらに教師の姿ですが、先導者ではなく、伴走者であるということが強く示されています。ICT 環境を最大限生かしながら、個別最適的な学びや協働的な学びが進められ、さらに教科担当制が導入されていくこととなります。このような中、新年度の小中一貫教育が進んでいくということになります。

（町長）
ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問ございますか。

（小尾委員）
今年度はコロナ禍の中で活動を進められてきたと思いますが、今年で計画の５年目となります。今の中学１・２年生は、小学５・６年生のときから中学の先生等と顔を合わせた中での取組での中学入学となりましたが、これまでの新１年生の様子と比較して、今の１・２年生の様子を教えてください。

（喜多校長）
中学生の子どもたちは小中一貫教育に関して興味を持っています。例えば、生徒会の演説会において、自分が生徒会長になったら小中一貫教育としての小学校の行事をこうしたい、挨拶運動を一緒にしたいなどと話してくれていて、意識は高まっています。今も生徒会と児童会の挨拶運動をやっていますが、非常に楽しみにしている生徒がいます。その様子をみると、少しずつ浸透しているし、根付いてきていると思います。ただ、細かいところをみるともう少し成長させたいな、もう少し小学生の時点で身につけさせれば良いなという点があるので、小中で腹を割って本音を言いながら活動を進めていけたらと思っています。

（町長）
小学校は友達と仲良く過ごす、中学校は３年後に受験ということで、授業に対する姿勢が大きく変わってくると思いますが、学びの点での挫折感は和らいでいますか。

（喜多校長）
中学校に入ってすぐにテストがありますが、小学生時に自分の置かれている位置がわか

らなかったものがそのテストではっきりして、そこにギャップを感じたりすることありますが仕方ないことだと思っています。乗入授業で、中学の先生方が中学ではこういう授業体制になるよと随時説明をしているので、中学校でのイメージは湧いているんじゃないかと思います。乗入授業の効果はあると思います。

（町長）
　不登校がなくなっていくということが、挫折感がない、楽しくやれているという証拠だと思いますが、不登校が少なくなっているので良い方向にいっていると思います。

（岩谷委員）
　最後のページにあります、小学校高学年の教科担任制の導入ですが、想定される課題を教えてください。

（山田校長）
　教科担任制は今年度から一部始まっていますが、その中で課題と感じているのは、授業を進めるスピードです。中学の先生が中学生に行う授業のスピードで進めると小学生はついていけないということが起きるので、その差を埋めていく。現在行っている乗入授業により、中学の先生も小学生に行う授業のスピードがわかってきているので、スムーズに導入していけるのかなと思っています。

（國安委員）
　乗入授業による先生方の負担感はどうでしょうか。

（山田校長）
　各先生の乗入授業の実施計画を事前に作成しているので、先生方も「やるぞ」ということになっていますので、負担感というのはないと思われます。中学の先生方も乗入授業を非常に楽しみにして行ってくれています。確かに授業の内容・スピードについては課題があるので、その点をスムーズに調整できれば、効果が上がると思います。

（東委員）
　先ほど小学生による参観について説明がありましたが、今年度の実施回数を教えてください。

（山田校長）
　中学校登校を昨年は１回（５時間）、今年は２学期から実施して合計６回（15 時間）行いました。中学校登校を経験した子どもたちの感想を集約しており、それを踏まえて内容の精査をかけています。

（岩谷委員）
　コミュニティ・スクール、学校応援ボランティアについての説明がありましたが、地域では学校教育は学校でやるべきものだという意識がまだあります。コミュニティ・スクール、学校応援ボランティアを広めていく上での町、学校の役割を教えてください。

（町長）
　現時点で特定の方の関わりに留まっており、不特定多数の方の、学校活動等に関心を持って学校を支えていこう、子どもたちを見守っていこうという意識の醸成がまだ進んでいない状況。いじめや不登校等の問題が複雑化しているので、地域で子どもたちを見守っていくんだということが重要となってきますので、教育委員会と歩調を合わせて町としての役割を進めていきます。

（岩谷委員）
　そこが一番重要なところだと思います。「今の子どもたち＝未来の町を担う人材」というところをしっかり見て、みんなで子どもを育てていきたいなと思っています。学校の先生方といろいろと協力し合えて、コミュニティ・スクールがもっと広まるように方策を考えていけたらなと思います。

（町長）
　コミュニティ・スクールについては、清陵高校の開校するにあたっての売りの一つとして、我々は考えており、また、小中学校のコミュニティ・スクールについても構想を持っていたので併行して進めてきたという経緯があります。

（岩谷委員）
　札内、幕別本町の子どもたちが何も考えないでも清陵高校に入れるというのが理想のスタイルだと思います。そのためにはコミュニティ・スクールが大事となってきます。

（町長）
　清陵高校も来年度でようやく３学年が揃いますが、今後３年間の出口（卒業後の進学先）がどうなってくるかによって、子どもたちや保護者が清陵に行こうということにつながっていくと思います。

（小尾委員）
　農村部（へき地）の中での学校の位置づけとして、地域の中で学校を守ろう、盛り上げようという意識があって、先生に苦労かけないようにするなど、地域としてやれることを率先してやっている。その点で市街地の学校の雰囲気は農村部と違っている気がします。
　子どもたちを中心に据えて、家庭・地域・学校がどのように取り組んで良い形を作っていけるかをみんなが思っていただければ自然と行動に出ると思います。

（町長）
　忠類、幕別はうまく連携できていると思いますが、札内の連携面が課題だと思っていますが、状況はどうですか。

（喜多校長）
　札内は子どもの人数も多いので大変は大変ですが、スタート時からそれぞれで色を出してできることをやっているので、今後、まくべつ学園の良いものを取り入れていきたいと思います。
　札内は、札内中学校の１校に対して小学校は３校あり、学校の規模の差や距離から、何か行事をやるにしても不便さはあるかなと思いますが、できることからやっています。
　現在、まくべつ学園の活動はモデル事業として先行していますが今後もさらに活動を進めていきたいと考えています。

（岩谷委員）
　９年間通しての小中一貫教育のメリットは相当あるんですか。そもそも今まで小学校と中学校がなぜ分かれていたのか保護者が理解できないと、小中一貫に疑問を持たれるのではないかと思います。

（山田校長）
　子どもたちの発達・発育が以前と違ってきているという感覚があります。心の成長という点で、小学１～４年、小学５年～中学１年、中学２～３年の３つ区分に分かれると思います。
　この３つの区分に分けて取組を実施している町村もありますので、実際の子どもの成長を見てみるとそういう区切りの仕方のほうが合っているという気はします。その区分において、中学生に入った時に大きなカルチャーショックを受けるというのは今の大きな課題かなと思っています。

（岩谷委員）
　そのカルチャーショックは、心の成長という点で低年齢のほうにずれているということですか。

（山田校長）
　情報が非常に多いので、情報面における成長は進んでいますが、人間関係が薄いので逆に幼いと思います。

（東委員）
　中学生の職場体験において、体験後、生徒に変化はみられますか。

（喜多校長）
　職場体験の体験日数には１日間・２日間・３日間がありますが、１日だと変化はなかなか感じられませんが、２日と３日ではたくましさが身につきます。職場体験を踏まえて、希望職種とその考え方もしっかりと持っていました。

（國安委員）
　まくべつ学園の活動は開始するとなったときはどうなってしまうのかなと思っていましたが、ここまで整理されていて本当に素晴らしいと率直に思いました。
　先生方も大変だと思いますので、ぜひボランティアを活用して自分たちが楽になる方向を模索していただきたいと思います。

（町長）
　それでは、協議事項２「スポーツ推進計画の策定」について、事務局から説明をお願いします。

（生涯学習課長）
　それでは、計画書の構成について説明いたします。
　計画書をめくって、目次をご覧ください。
　目次でありますが、この計画は、第１章の「計画の策定に当たって」、第２章の「スポーツを取り巻く現状」、第３章の「計画の体系」、第４章の「基本計画」、第５章の「計画の推進に当たって」の５つの章により構成しております。
　１ページをご覧ください。
　第１章、１「計画策定の背景と趣旨」でありますが、国におきまして、スポーツ立国を実現するために、平成 23 年に制定しました「スポーツ基本法」で、スポーツに関する基本理念、国及び地方公共団体の責務を明確化し、平成 24 年には「スポーツ基本計画」、平成 29 年には「第２期スポーツ基本計画」を策定し、国民、スポーツ団体、民間事業者、地方公共団体、国等が一体となって取り組むための指針を示しました。
　町におきまして、これまで町内からオリンピック選手やプロスポーツ選手を多く輩出しており、町民一人ひとりが運動やスポーツを見る・する・楽しむ機会を創り、地域に根ざしたスポーツコミュニティの確立に向けて、地方創生推進交付金事業の活用により、平成 30 年度から「アスリートと創るオリンピアンの町創生事業」を展開してきました。
　これまでの取組や国におけるスポーツ施策を踏まえ、今後も町民一人ひとりがスポーツに関わることで、スポーツを地域に根ざした文化として醸成するとともに、スポーツ交流人口の拡大や経済の活性化につながるよう、町・町民・地域・関係機関が一体となって、一歩ずつ着実にスポーツ振興に取り組むため、「幕別町スポーツ推進計画」を策定しようとするものであります。
　２「計画の位置付け」でありますが、スポーツ基本法第 10 条第１項で、「都道府県及び市町村の教育委員会は、国のスポーツ基本計画を参酌して、地方の実情に即したスポーツの推

進に関する計画を定めるよう努めるものとする。」とされているため、国や北海道の計画を参酌した上で、「第６期幕別町総合計画」の基本構想を基に、「幕別町教育大綱」の基本方針や「第６次幕別町生涯学習中期計画」などの個別計画との整合性を図り、スポーツ基本法に基づき、スポーツ推進計画を策定するものであります。

２ページをご覧ください。

３「計画の策定体制」でありますが、令和元年10月に無作為抽出の町民及び関係団体が参加した「町民と考えるオリンピアンの町ワークショップ」の提言があった内容や学識者である日本体育大学の教授と町内関係団体との意見交換内容などを踏まえて、スポーツに関する施策を体系化したものであります。

４「計画の期間」では、生涯学習中期計画の最終年度に合わせて、令和３年度から令和５年度までの３年間を計画期間として、社会情勢等により見直しを行うこととしています。

３ページをご覧ください。

第２章、１「町民のスポーツ意識の状況」、①「子どものスポーツの実施状況」では、子どもがスポーツをしている人の割合は 64.0%でありますが、スポーツをしていない人の割合は33.2%となっており、その理由は、「時間がない」、「スポーツに興味がない」、「お金がかかる」と回答が多い一方で、スポーツをしていていない人のスポーツの関心度は、「やってみたい」、「どちらかというとやってみたい」と回答している方が57.5%となっています。

４ページをご覧ください。

子どもが知っている世界で活躍している町内出身のアスリートという問いに、髙木菜那選手や髙木美帆選手と答えた方は85%以上となっていますが、他の選手は40%以下となっている状況であります。

５ページをご覧ください。

②「成人のスポーツの実施状況」では、町における成人のスポーツをしている人の割合は26.9%であり、全国の約半数の割合となっています。スポーツをしていない人の理由は、「時間がない」、「スポーツに興味がない」、「仲間がいない」と回答が多い一方で、スポーツをしていない人におけるスポーツの関心度は、「やりたくない」、「どちらかというとやりたくない」と回答している方が48.7%となっています。

６ページをご覧ください。

「運動は健康にとって大切か」という問いには大切であると回答した方が 91.4%となっており、運動と健康の意識が高い一方、1日に歩く歩数では、3000歩以下が36.3%であり、厚生労働省が行っている「国民健康・栄養調査（2018)」における平均6340歩と比べると非常に少ない状況にあります。

７ページをご覧ください。

町内のスポーツ環境の満足度は、「満足」、「どちらかというと満足」と回答している方が63.1%となっていますが、「どちらかというと不満」、「不満」と回答している方が25.8%となっており、不満の理由として、「情報が足りない」、「施設や機器の整備不足」、「参加したい講座やイベントが少ない」と回答されています。

下段になりますが、町内のスポーツ選手の応援活動に対する満足度は、「満足」、「どちら

かというと満足」と回答している方が84.9%となっていますが、「どちらかというと不満」、「不満」と回答している方が 8.9%となっており、不満の理由として、「応援活動内容がわからない」、「情報が入ってこない」、「オリンピックだけでなく、普段の活動がわからない」と回答されています。

８ページをご覧ください。

２「スポーツ関係団体の状況」であります。①スポーツ少年団の状況では、小学校区単位におけるスポーツ少年団のチームを構成することが難しく、複数校構成の混合チームやクラブチームとなってきており、平成28年度をピークに団体数が減少傾向にあります。

②体育連盟の状況では、競技人数が令和元年度に500人ほど減少しており、特に若年層の競技者が少なくなっている傾向にあります。

９ページをご覧ください。

３「スポーツ施設の状況」であり、町内のスポーツ施設を示しております。

10ページをご覧ください。

第３章　１「基本理念」では、教育目標である「郷土を愛し、自ら学び、心豊かに生きる人」の育成を基本として、引き続き子どもから高齢者までのライフステージに応じたスポーツの推進・充実を目指していくものであります。

２「基本目標」では、５つの基本目標を掲げています。基本目標１として、「アスリートとの親近感を持つことで、スポーツを「見る」・「応援する」雰囲気を醸成しよう！」、基本目標２として「スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう！」、基本目標３として「社会全体でスポーツを「支える」基盤を整えよう！」、
基本目標４として「子どもから高齢者までみんながスポーツをしやすい「環境」をつくろう！」、基本目標５として「「オリンピアンの町・幕別町」を広げよう！」としております。

この基本目標につきましては、町民と考えるオリンピアンの町ワークショップの５つの提言に沿ったものとなっております。

11ページをご覧ください。

３「SDGs（エスディジーズ）を踏まえた計画の推進」では、当計画がＳＤＧｓの推進、いわゆる「持続可能な開発目標」の推進につながるものと考え、その視点を取り入れ、基本目標の達成に向けた各種施策を推進していくものであります。

12ページをご覧ください。

４「計画の体系」では、左の「基本目標」に沿って、中の「施策の方向」を表し、右には「関連する SDGs」のアイコンを表しております。全ての基本目標に「４　教育」のアイコンを表しているほか、「３　健康な生活」、「８　経済成長・雇用」、「11　安全な都市」などのアイコンを掲げており、いろいろなＳＤＧｓの推進につながるものであります。

14ページをご覧ください。

14ページから22ページまでにかけて、第４章「基本計画」となります。第３章で示した５つの基本目標に沿って、現状と課題、目標（KPI）設定、施策の方向をそれぞれ示しております。

基本目標１の「スポーツを「見る」・「応援する」雰囲気を醸成しよう」における現状と課

題におきましては、先ほど説明いたしましたアスリートの認知度がそれほど高くないと同時にアスリートが多数いることを町の強みだと感じている人が少ないため、町全体が身内意識を持ち、これまで以上に応援する態勢を整える必要があるとしております。また、十勝特有の自然環境とさまざまな施設がある社会環境がスポーツ合宿や大会において適した地であることを踏まえ、町全体となった更なる受入体勢や盛り上がりをするため、官民連携としたネットワークの強化が必要と挙げています。目標設定では、町の応援活動の満足度が令和５年度に 88.0%、スポーツ合宿・大会の受入者数が令和５年度に 420 人と目標値を設定しています。施策の方向では、①各種メディアによる情報発信の強化、②町内出身アスリートの応援における町全体での機運醸成、③スポーツ合宿や大会の誘致とスポーツ交流人口の拡大としており、具体的には優秀な成績を収めた町内選手や町内出身アスリートの情報発信の強化、町全体での応援する雰囲気づくり、スポーツ合宿や大会の誘致における歓迎ムードと地域交流活動の拡大としております。

15 ページをご覧ください。

基本目標２の「スポーツを「する」きっかけをつくろう」における現状と課題におきましては、子どもがスポーツ以外の興味や価値観の多様化により体を動かす機会が減っていること、成人期は健康意識が高まっているので、日頃からスポーツをするきっかけづくりと継続する習慣を身に付けることが重要と挙げています。目標設定では、成人のスポーツ実施率が令和５年度に 30.0%、子どものスポーツ実施率が令和５年度に 68.0%と目標値を設定しています。施策の方向では、①スポーツ体験の充実、②学校での体づくり活動の充実、③様々な世代のスポーツ機会の充実と健康増進、④コミュニティスポーツの普及としており、具体的にはスポーツ団体と協議し、子どもが様々なスポーツを気軽に参加できる体験入会の開催の検討、町内出身アスリートと直接触れ合う機会の創出、様々な世代が生活に合わせて効果的に継続できる方法の普及、パークゴルフの普及、共生社会の実現につなげるパラスポーツの普及としております。

17 ページをご覧ください。

基本目標３の「スポーツを「支える」基盤を整えよう」につきまして、目標設定では、体育連盟加盟競技人数が令和５年度に 4,600 人、スポーツイベントのボランティア実績人数が令和５年度に 200 人と目標値を設定しています。

施策の方向では、①スポーツ団体の活性化、②スポーツ指導者やボランティアなどの人材育成、③スポーツ人材の働く環境づくり、④スポーツ大会や用具、送迎などの保護者負担軽減としており、具体的にはイベントなどを通じて関係団体の連携によるスポーツ団体の活性化、研修会を通じてスポーツ指導者の育成と資質向上を図る機会の充実、スポーツボランティアの育成、幕別清陵高等学校と連携した若手人材の育成と引退後のアスリートの雇用確保、送迎や競技用具などの保護者負担軽減できる体制づくりの検討としております。

19 ページをご覧ください。

基本目標４の「スポーツをしやすい「環境」をつくろう」について、目標設定では、農業者トレーニングセンター利用人数が令和５年度に 33,000 人、札内スポーツセンター利用人数が令和５年度に 120,000 人、スポーツ環境の満足度が令和５年度に 70.0%と目標値を設

定しています。
21 ページをご覧ください。
基本目標５の「「オリンピアンの町・幕別町」を広げよう」についてであります。目標設定では、オリンピアンたちからのメッセージ「マチアルキ」視聴回数が令和５年度に 300 回、スポーツと観光イベントの入込客数が令和５年度に 30,000 人と目標値を設定しています。
以上でスポーツ推進計画（素案）の説明を終わります。

（町長）
説明が終わりましたのでご意見ご質問があればお伺いしたいと思います。

（小尾委員）
私の子どもは 20 年ほど前に少年団に入っていました。長男が剣道していたが、それが次男・長女が剣道を始めるきっかけとなりました。先日、指導者の方とお話しをする中で、少年団員減の理由としては、お金がかかる、送迎、指導者の減があると感じました。
スポーツ推進計画の中の数字をみると団員数はそれほど減っていないように感じますが、加入の割合はわかりますか。

（生涯学習課長）
令和２年の児童数で割り返すと、７割以上となります。（令和２年度児童数：1,300 人、加入人数：1,000 人）重複している部分もあり、実人数ではありません。

（小尾委員）
子どもたちが少年団で活動するために保護者の理解が必要だと思いますが、保護者の意識向上のために工夫していることはありますか。

（生涯学習課長）
現在、保護者の関わる機会が増えています。野球でいえば、スコアボード記入、塁審、アナウンス、送迎などがあり、保護者が積極的に少年団へ加入させようとはしない状況ですので、もっと関わりやすい活動内容にすることが大事と考えています。

（町長）
少子化の中において子どものスポーツ実施率や体育連盟加盟競技人数の増が掲げられていますが、固い決意がないと達成は難しいので、計画に基づいた実施計画を作っていかなといけないと思います。保護者の支援または負担軽減をしていかないと少年団の加入率は上がらないと思います。

（教育長）
ワークショップの中でも保護者の経済的な負担等についての話は出ていましたので、具

体的な対策を検討していきます。

（國安委員）
　いかに生活の中にスポーツを取り入れていくかということが大事になります。先日、防災行政無線を受け取りましたが、何時にラジオ体操がかかる等の情報を流せないものでしょうか。

（町長）
　何でも流してしまうと緊急時のお知らせが緊急と思えなくなってしまうので流すべきものは精査しないといけないと考えていますが、例えば夏休み期間中は家族も一緒にやりましょうと呼びかけることは必要だと思います。健康づくりとしてスポーツに親しもうというムードの醸成は必要だと思います。

（生涯学習課長）
　お家でできるラジオ体操をホームページでの紹介を担当課と進めているところですが、アイヌ語でするラジオ体操もあるのでできれば取り入れて、お家でできることを考えていきたいなと思います。

（東委員）
　投擲の練習場所の整備についてのパブリックコメントがあり、野球場への整備を検討すると書かれていましたが、練習するスペースは十分にありますか。

（生涯学習課長）
　ライト方向の球場を越えたあたりに 90 メートルのスペースがあり、そのスペースにハンマー投げのゲージを設置すれば投擲の実施は可能です。

（東委員）
　槍投げや円盤投げでも安全性は確保できますか。

（生涯学習課長）
　槍投げ・円盤投げは陸上競技場内で練習を実施できます。

（東委員）
　安全性が確保できるということを聞いて安心しました。投擲できる練習場所があることということを PR していただけたら嬉しいなと思います。

（町長）
　整備の可能性があるという段階の話です。施設整備する場合はそれなりの予算を伴いますので、空いている土地の状況をしっかり測量しながら、もしそういう可能性が開けるのなら整備を検討するということでご承知おきいただきたい。

（東委員）
　体の動かし方自体がわからない子も一定数いて、スポーツを楽しむということをあきらめてしまう子もいる。保健課等と連携することになると思いますが、その子たちのための教室があったらどうなのかと思いました。

（町長）
　機能訓練であれば実施している場所（発達支援センター等）で受けてもらえばいいですし、スポーツということになれば、キーポイントは指導者の養成で、指導者を養成していくことがこのスポーツ推進計画を実現していくことにつながっていくと思います。日体大や道科大との連携、現役アスリートの力を借りながら指導者養成を行っていきます。

（教育長）
　子どもたちの体を動かすとっかかりとして、バルシューレというものをやっています。幼稚園の子どもたちを対象とした、ボールを使って体を動かす教室です。

（生涯学習課長）
　バルシューレ教室は毎年実施しています。総合型地域スポーツクラブの幕別札内スポーツクラブで野球教室を開催していますが、小学１年生から３年生を対象として、指導者が清陵高校の野球部の顧問でして、大きなボールを相手にぶつける（鬼ごっこ）や射的等、遊びを交えながら野球につながる動作を行う教室を開催しています。

（町長）
　走ることがすべての基本なので走り方教室が良い。指導者によって走り方が変わってくる。きちんと走ることが身につけばいろんなことに応用できる。

（町長）
　それでは今日予定していました協議事項につきましては以上とさせていただきます。
　他に委員の皆さんから話題提供して聞きたいことがあればお願いします。よろしいでしょうか。それでは事務局から連絡事項はありますか。
（政策推進課長）
　特にございません。

（町長）

それでは以上を持ちまして、令和２年度第２回幕別町総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。